科学的方法と帰納

１、命題の種類

アプリオリな命題

a priori　　経験によらずに真偽が知られる命題

独身者は未婚である

雨が降るか、または降らない（排中律）

２＋３＝５

アポステリオリな命題

a posteriori　経験によって真偽が知られる命題

雨が降っている　（個別命題）――経験によって直接、真偽がわかる

全てのカラスは黒い（一般命題）――経験からの推論によって間接的に真偽がわかる

分析的命題

言葉の意味のみによって真偽が決まる命題

独身者は未婚である

総合的命題

世界の有り方が真偽に関係する命題

雨が降っている

アプリオリーアポステリオリ　　分析的―総合的

真偽の知られ方　　真偽のきまり方

	アプリオリ	アポステリオリ
分析的	○	×
総合的	×	○

科学では世界に関する真なるアポステリオリな命題が探求される

特に、経験から間接的に得られるもの

観察命題（言明）－経験（観察）によって直接、真偽が知られる

法則的命題（言明）－経験（観察）から推論によって導き出される

（理論）　[一般的命題]

２、推論の種類

推論：いくつかの前提から１つの結論を導き出すもの

（１） 演繹 deduction

例　アンドルーはシェイクスピアの全ての喜劇が好きだ　　三段論法

空騒ぎはシェイクスピアの喜劇だ

アンドルーは空騒ぎが好きだ

前提が全て真ならば、結論も必ず真

結論が前提のうちに暗に含まれている一知識の拡張にならない

推論の正しさにとって前提は必ずしも真でなくてもよい

例　人間はすべて緑色をしている---偽

私は人間だ　---真

私は緑色をしている　---偽　演繹としては正しい

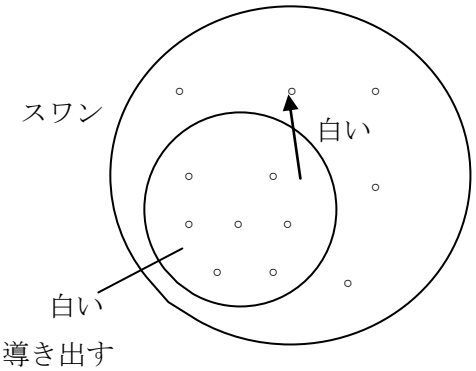
（２） 非演繹的推論（広義の帰納）

① 帰納（狭義：枚挙的帰納）

スワン１は白い　　スワン１は白い

スワン２は白い　　スワン２は白い

スワンはすべて白い　　スワン３は白い



いくつかの事例から、次の事例か、あるいは一般化を導き出す

＝一般言明

前提が真でも、結論が真とは限らない

結論は前提のうちに含まれていない一知識の拡張になる

② 最善の説明への推論　inference to the best explanation

例　犯人は左手でナイフを刺した

容疑者のうちで左利きはＢだけだ

犯人はＢだ（＞犯人はＡだ）

与えられた証拠を説明するもっともよい仮説を導き出す

前提が真でも推論が真とは限らない

３、帰納の問題

帰納主義的科学観

帰納（枚挙的）が科学的探究において中心的役割を演じる

観察事例を収集──→法則──→現象

帰納　　演繹　　説明、予測

例　今日まで太陽は東から昇った

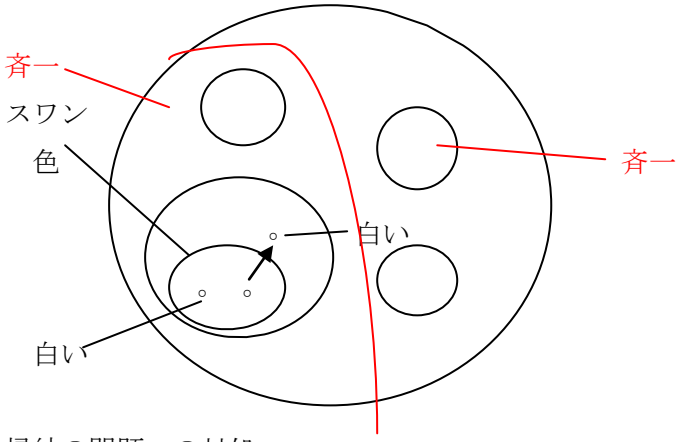
ゆえに、明日も太陽は東から昇るだろう

帰納の正当化

自然の斉一性←どうやって正当化されるのか

自然の斉一性　過去において、自然は斉一であった

∴自然は斉一だ　論点先取



４、帰納の問題への対処

（１）　ストローソンの個別論

個別の帰納的推論を個別に正当化することが可能

（２）　サモンのプラグマティックな解釈

帰納は正当化できない

ほかの手段（勘、占いなど）よりましだ→帰納を用いるのは合理的